

<h1>HOMAS</h1> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 10px;">日本語版</div> </div> <p>ニューズレター</p>	<p style="text-align: center;">No.49</p> <p>平成18年(2006年)12月1日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
<p style="text-align: center;"><i>Hokkaido Massachusetts Society</i></p> <p style="text-align: center;">北海道・マサチューセッツ協会</p>	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail: homas@siren.ocn.ne.jp</p>

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち ⑥

今年2006年はエドウィン・ダン来札130周年 —真駒内を拓いたダンの牧牛場とモーテン・ラーセンの有畜農業—

明治2年(1869)7月、明治政府の開拓使設置により、北海道の本格的な開拓がスタートしますが、明治3年(1870)5月、開拓次官となった黒田清隆は、北海道の開拓や農業経営の模範を米国に求めて、マサチューセッツ州出身の米国農務長官ホーレス・ケプロン(1804-1885、当時67歳)を開拓使顧問として招聘しました。明治4年(1871)7月来日したケプロンの指導で、早速、東京の青山・麻布に官園が設けられ、北海道に導入する作物の試作・家畜の飼育や農業技術者の養成が行なわれます。また、ケプロンは3回にわたり道内各地の視察・調査に同道し、詳細な「ケプロン報文」を作成しています。 <この経緯は「HOMAS」No.43に詳述>

真駒内を拓いたエドウィン・ダンの牧牛場と用水路

エドウィン・ダン(1848~1931)は、オハイオ州で牧場経営をしていましたが、ホーレス・ケプロンの指示によるアルバート・ケプロン(ホーレス・ケプロンの息子)の依頼を受けて、明治6年(1873年)7月に米国の進んだ畜産技術指導のために、牛20頭・羊100頭とともに大陸横断の苦難の未来日しました。早速、東京麻布の第3官園で約30人の生徒に北海道開拓に役立つ技術者養成のために実技を主体にした畑作や畜産の技術を幅広く指導したといわれます。明治8年(1875)5月、エドウィン・ダンは、北海道七重(現在の七飯)官園に、5ヶ月の長期出張で来て、農業技術や馬の改良に欠かせない去勢技術の普及に努めました。この期間中、札幌官園、新冠牧場も視察しました。また七重では「妻となるべき女性」ツル(15歳)との出会いがありました。

(後に、国際結婚の難しい手続きを経て、正式に結婚。日本永住の決意を固めたのでした。)

そして、明治9年(1876)6月、28歳のエドウィン・ダンは、園芸担当のボーマーと共に札幌官園に転勤し、北海道開拓の指導にあたります。直ちに原始林の生い茂る真駒内の地で、牧牛場の建設に着手、搾乳場・乳製品加工場・用水路など、牧場の施設整備に努力しました。このエドウィン・ダンの手により開拓使牧牛場として創設された建物は、その後北海道種畜場となり、名実ともに北海道の家畜改良や技術普及のセンターとしての役割を果たしてきました。しかし、戦後進駐軍接収のため、新得町に移転しました。

その後、この由緒ある建物をぜひ残したいということになり、昭和39年(1964)に、エドウィン・ダン顕彰会により現在地に移設され、「エドウィン・ダン記念館」として関係資料を展示しました。そして、昭和41年(1966)札幌市に移管されましたが、老朽化のため本格的な改修工事を行い、平成15年(2003)5月リニューアルオープンを機に、地元住民「エドウィン・ダン記念館運営委員会」により運営されることになり現在に至っています。記念公園内には「エドウィン・ダン銅像」(彫刻家 峯 孝氏制作・昭和39年)もあります。

とりわけ、エドウィン・ダンが完成させた「真駒内用水路」（～明12年・1879年完成）は、真駒内川から取水され、現在の中央公園の池を通り、緑町、曙公園から陸上自衛隊駐屯地を通り、精進川に注ぐ約4kmに及ぶ灌漑用水で、家畜の飲料水・農業用水・水車などにも利用され、真駒内牧牛場地域だけでなく、後には広く、平岸、豊平、白石など広域に用水を供給してきた歴史をもっています。これは北の「創成川」<「大友堀」（慶応2年）・「吉田堀」（明3）・「寺尾堀」（明3）の総称>に匹敵する歴史的価値のあるものです。

この明治9年(1876)7月31日、マサチューセッツ州立農科大学学長ウィリアム・S・クラーク(当時50歳)が、教え子のウィリアム・ホイラー、ディビッド・ペンハローとともに札幌着任。8月14日、札幌農業校開校となります。これに伴い札幌官園の大半が農学校の農場となったこともあり、エドウィン・ダンも協力して、明治10年(1877)我が国最初の模範家畜房(モデルバーン)を建築しました。これは、今日も北大構内に、重要文化財として保存されています。

明治10年(1877)ころには、真駒内の牛舎には牛107頭、馬は農耕用・乗馬用あわせて10数頭、豚も40頭くらいいたそうです。当時のエドウィン・ダンは、本府近くの虻田通り(現在の中央区北4西2)の官舎に妻ツル・長女ヘレン(明10生)と住み、毎日真駒内牧牛場に通っていました。

明治11年(1878)、エドウィン・ダンの提言により新冠牧馬場が整備され、馬産王国北海道の基礎ができたのでした。馬の改良と増殖が進められ、開拓使が米国農法を模範として、馬を使用する農機具の導入を図ったこともあり、馬による大型機械が普及して、北海道の大規模農業の発展に大きく貢献しました。また、ビール製造用の大麦・小麦・亜麻の栽培、暗渠排水による土地改良なども、エドウィン・ダンの指導によるところ大であったといわれます。(今日も、多くの農機具は、プラウ・ハロー・ホークなど英語名で呼ばれています。また、バター、チーズの製造、ハム・ソーセージの加工、ミルクなどの普及もここからはじまります。)

明治15年(1882)1月、開拓使の廃止により真駒内牧牛場は農商務省の所管<後に「真駒内種蓄場」(明19)、「北海道種蓄場」(明26)と改称>となりますが、この年、札幌農学校2期生の「町村金弥(1859-1944)が真駒内牧牛場に勤務して、短期間ではありましたが、エドウィン・ダンの直接指導を受けたのでした。エドウィン・ダンは、この年12月、6年半にわたる北海道滞在に多くの業績を残して、家族と一緒に東京に移りました。さて、その後のエドウィン・ダンは、明治16年(1883)、長年にわたる北海道農業・畜産指導の功績により勲五等旭日双光章を受章しています。米国オハイオ州に一時帰国しますが、明治17年(1884)、駐日米国公使館の二等書記官として再来日、明治30年(1897)まで、外交官として勤務。後明治33年(1900)石油採掘事業を起し、大正元年(1912)三菱会社勤務。昭和6年(1931)5月15日、東京代々木の自宅で永眠しました。(享年82歳でした。)

こうして、エドウィン・ダンの牧牛場からはじまった真駒内の開拓は、肥沃な土地に恵まれ下町の人々は野菜や果物を作り、また種蓄場に納める牧草や根菜類を作っていたのでした。

エドウィン・ダンの指導・影響を受けた人に北海道酪農の先駆者となる町村金弥や宇都宮仙太郎、町村敬貴などがいますが、いつか稿を改めて詳述したいと思います。

*

さて、北海道農業も新しい肥沃な開墾地での、無肥料連作を長年続けたために、大正時代に入って次第に地力が落ちてきたといわれます。大正6年(1917)、札幌酪農組合蓄牛研究会と道庁農政担当が中心になって地力回復のための有畜農業の検討をはじめ、「北海道第2期拓殖計画」として、北政の有畜農法を取り入れることとなります。

大正12年(1923)、北海道庁は、デンマーク人農家2戸、ドイツ人農家2戸を5年契約で招聘し、札幌近郊と十勝地区で模範経営を行わせることとしました。

デンマークでは165名の応募者、ドイツでは8名の候補者の中から、4戸を決定。十五町歩農家としてデンマークのモーテン・ラーセン<33歳・4人家族>(札幌真駒内種蓄場内耕地)、五町歩農家としてエミール・

フェンガー<31歳・4人家族>(札幌琴似村農事試験場内耕地)、十町歩農家としてドイツのフリードリッヒ・コッホ<43歳・6人家族>(十勝清水)とウイヘルム・グラバウ<30歳・4人家族>(帯広)の4家族が招かれました。

真駒内に大きな足跡を残したモーテン・ラーセンの有畜農業

モーテン・ラーセンは、18歳から20歳までの間、商船学校に学び世界各国の見聞を広め、英語にもドイツ語にも通じていたといわれます。1916年、北シユーランドに大農場を購入して多年苦心の結果、その経営に成功し、養鶏事業にも成功していました。

モーテン・ラーセン(33歳)は、妻リーモア(32歳)、長男ポール(8歳)、長女エテッド(6歳)の4人家族で助手のペダー・スヨンナゴー(25歳)と一緒に、デンマークを大正12年(1923)7月10日に出発、ドイツハンブルク港より東亜汽船「アフリカ丸」で出帆して、9月12日神戸入港、そして9月19日に真駒内種畜場に到着しています。

ラーセン一家は種畜場の敷地内に北歐風の白い木造家屋を建て、畜舎を作り、農耕馬2頭、乳牛6頭、豚20頭、鶏50羽を飼い、プラオ、カルチベーター、ハロー、ヘーレーキ、播種機、種子選別機などの機械を使って農業を行ったといえます。この経営状況は真駒内の農家のモデルとなり、農事や家畜改善に大いに役立ったのでした。北海道大学でもそれまでの主穀農業とモーテン・ラーセンの主畜農業の違いを克明に記録しました。モーテン・ラーセンは働き者で、家族は4人。いつも大きなエプロンを掛けて太って体格の良い奥さんは親しみやすく、助手のスヨンナゴーも温厚質朴な青年であったといわれています。

近所の人たちは菜園や果樹園の作り方、農機具の使い方などを教わり、野菜や果物の種子をもらって自宅の畑に植え育てるなどの交流があったようです。こうして日本人に親しまれ、有畜農業による地力回復に成果をあげたモーテン・ラーセン一家も、五年の契約を終えて昭和のはじめデンマークへ帰りました。

そしてこの真駒内地区は、第二次世界大戦後の進駐軍キャンプの接収などもあり、その風景は大きく変貌しましたが、今日もなお、エドウィン・ダンの「真駒内用水路」には水が流れ続けています。また、真駒内五輪記念公園(緑町)には「ラーセン農場跡」の標識が往時を偲ばせています

<以上、真駒内開拓史第一部とします。「北海道を知る歴史発見の旅シリーズ」真駒内コースの歴史散策で、開拓期から今日までの変遷の歴史の跡をたどりたいと思います。>

新企画 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ 一真駒内コースのご案内

日時	平成19年5月12日(土)10時~14時30分 (実施予定)
場所	地下鉄真駒内駅集合ー桜山(真駒内保健休養林)ーモーテン・ラーセン農場跡(五輪記念公園)ー真駒内用水路(真駒内緑町緑道)ーエドウィン・ダン記念館及び記念公園銅像ー東急レストラン「ミュー」昼食会(解散)
参加費	会員・学生 2,500円 一般 3,000円 (昼食代・資料・写真代他)

真駒内の歴史は、明治9年(1876)エドウィン・ダンの牧牛場(後に真駒内種畜場。北海道庁種畜場と改称)開設にはじまります。そして「真駒内用水路」の開設(～明12)、山鼻石山間の馬車鉄道開通(明42ー大7)、定山溪鉄道開通(大7年ー昭44)、モーテン・ラーセン農場の有畜農業(大12ー昭2)、円山と並ぶ桜の名勝地「桜山」のお花見(大正～昭和)、進駐軍キャンプによる接収(昭21ー昭34)、自衛隊駐屯地(昭34ー)、住宅団地造成(昭35)、さらに札幌冬季オリンピック開催による競技場・選手村等建設(昭47)などの歴史の変遷を経て今日に至っています。この真駒内コースの歴史散策で、南区の開拓期から今日までの歴史再発見をしたいと考えています。

平成18年度第2回 国際交流ランチセミナー 記録(抄)

ハロウィーンパーティー

テーマ 「新しい国際交流を求めて」～異文化理解のふれあい～

日時 平成18年10月28日(土) 11:00～14:00

場所 レストラン「みもぎ中島公園店」

ゲスト

マーク ハミルトン	(カナダ)	(北海道東海大学助教授)	(M)
島田 見佳子	(日本)	(ハミルトン先生奥様)	(F)
ジョーダン パーティ	(カナダ)	(北大留学生)	(M)
スティーブ サックス	(アメリカ)	(札幌市教委 ALT)	(M)
ニルパ ウィドヤラトウネ	(スリランカ)	(JICA 海外技術研修員)	(F)
チャンダナ ドン フィリップムハンディラムゲ	(スリランカ)	(JICA 海外技術研修員)	(M)
マーク ブラウン	(イギリス)	(札幌市教委 ALT)	(M)
ニコラス デニュンジョ	(アメリカ)	(札幌東商業高校講師)	(M)
ジョセフ サミュエル トマシ	(アメリカ)	(北大 UMass 留学生)	(M)
ダニエル フレイル ダニエルソン	(アイスランド)	(小樽商大留学生)	(M)
エイナル グドゥムンドソン	(アイスランド)	(小樽商大留学生)	(M)
オラソン ソラリン	(アイスランド)	(小樽商大留学生)	(M)
ベアナード ターハマー	(オーストリア)	(小樽商大留学生)	(M)
ヤン ブラッカ	(ドイツ)	(小樽商大留学生)	(M)

概要: 今回は、アメリカの祭日「ハロウィーン October31」をテーマに、日本の伝統行事などと比較しながら、異文化交流の楽しいひとときとなりました。ポストンからたくさんのハロウィーングッズを取り寄せて会場の飾り付けもしました。参加者合計46名でした。

東海大学のハミルトン先生から、「ハロウィーン」の本当のルーツのお話や子供たちも参加してジャックオーランタンの作り方を教えていただいたりしました。各テーブル毎に国際交流を深めていただき、「ハロウィーンキャンディー」のお土産も用意しました。

ここには、紙面の都合上、ゲストのスピーチのみをご紹介します。
(通訳は協会会員の岩崎修子さん)

マーク ハミルトン (カナダ) (北海道東海大学助教授)

ハロウィーンは、アメリカから来たように思われますが、その発祥の地はイギリスです。アイルランドのセルティックという民族から生まれました。ハロウィーンは収穫祭と新年のお祭にあたりました。

昔は、11月1日に亡くなった人間の霊が戻ってくると考えられていました。亡くなった人間の霊が戻ってくる時には、魔女や悪霊も現れると信じられていました。それで、その前夜(10月31日)、生きている側の人達は、戻ってくる先祖の霊のために良い物を供えたり、また仮装をしたり、明かりをつけたりして、悪霊などを追い払おうとしたのです。

ハロウィーンのコスチュームになっている幽霊や魔女についてですが、やってくる霊と同じ格好をしていれば同じ仲間のように思われて、危険はないと考えたのです。

もう一つ、ハロウィーンの大きなシンボルは、このテーブルの上、まわりにもたくさんあります「かぼちゃ」です。日本語で言う緑色のかぼちゃは英語では「スクワッシュ」です。本当の「パンプキン」はオレンジ色です。このかぼちゃはハロウィーンのために作られています。また、感謝祭にも「パンプキン・パイ」を作ります。小さいのは「パンプキン・パイ」、大きいのは「ジャック・オー・ランタン」を作ります。なぜ、「ジャック・オー・ランタン」なのでしょう？知っている人いますか？ジャックは誰でしょうか？ジャックはアイルランドのとても悪い人でした。いたずらをする人で、お金がなくて天国にも地獄にも行けなくて、死んでからも「カブ」を持って、中に石炭をいれて、提灯(ランタン)にして現世をうろついていたのです。それで、ジャックが持っていたランタンだから、「ジャック・オー・ランタン」といわれたのです。アメリカでは、「かぼちゃ」を作っていて、かぼちゃの方が使いやすかったので、「カブ」ではなくて「かぼちゃ」になりました。

シンボルカラーの黒とオレンジについてですが、オレンジはこの時期に収穫されるカボチャの色からです。パンプキンはくりぬいて軽くて持って歩ける提灯として、霊が来る時に見やすいようにしてあげるという目的と、自宅の玄関の明かりにする目的があります。玄関に怖い顔のパンプキンを置いておくと、悪霊が入ってこないというわけです。それから黒の色については、この時期になると暗くなるのが早くなり、黒い色は夜を表しています。

始まりはアイルランドですが、いまは北米の方で、かぼちゃなどがビジネスになり、盛んになってきています。たぶん子供達が一番楽しみにしている行事だと思います。なぜ楽しみにしているかという、仮装して、近所の家に行くと、「トリック・オア・トリート」をします。「トリック・オア・トリート」は何でしょう？(「おやつ」と答える声あり)そうですね、「トリート」は「おやつ」です。キャンディとか。「トリック」は何でしょう？「いたずら」ですね。お菓子をくれないと、いたずらするぞ、という意味です。日本の七夕の「ローソク出せ出せ。出さないとかっちゃんぞ。」に似ていますね。

以上、ハロウィーンを簡単に説明しましたが、ハロウィーンの良いところは近所の人達が皆顔を合わせて、親しくなれると言うことです。「文化」の視点からみると、各民族の年中行事が、文化の違いではなく、共通するものを考えてみると、私にはとても面白いです。日本の七夕、お盆などとも比べると、とてもおもしろいと思います。

すみません、それでは今作りましょうか？「ジャック・オー・ランタン」作りたい人、大人も子供たちも集まってください。10分くらいで出来ると思うんですけど。どうぞ前のほうに来てください。「ジャック・オー・ランタン」をつくる時は、ナイフとボールとマーカーが要ります。新聞紙を敷いて作りますよ。ミスターマリックのように、曲がった「特別のスプーン」を用意します。カボチャの中の種子をとるために、「曲がっているスプーン」がいます。……(以下実演・3つのジャック・オー・ランタンを子供たち中心で作る)……

スティーブ サックス (アメリカ) 札幌市教委ALT (男性)

皆様、こんにちは。「ハッピーハロウィーン」私はスティーブ・サックスと申します。札幌市のALTで北陽中学校で英語を教えています。私は子供のころ、故郷のアリゾナ州(米国南西部の州：古くは銅と綿花の生産、今日ではハイテク産業の一大拠点、人口約558万人。州都フェニックス。グランドキャニオンは有名)で、ハロウィーン

お祝いをしていました。毎年、「トリック・オア・トリート」をして近所の家をまわり、お菓子をもらったり、ハロウィーン・パーティを楽しんだりしていました。正統派のハロウィーンを経験していたわけです。今日はとてもなつかしく、楽しく過ごしています。お招きありがとうございました。

チャンダナ (スリランカ) JICA 海外技術研修員 (男性)

こんにちは。チャンダナと申します。私はスリランカから来ました。スリランカ（インドの南に位置するセイロン島。1948年独立。公用語はシンハラ語とタミル語。首都コロンボ。人口約1,990万人。）では、75%がシンハラ人、18%がタミル人です。宗教は、ほとんどが仏教徒です。気候については、とても暑いところですが、札幌はとても寒いですね。シンハラ語では、たとえば、「寒いですね」というときは文の終わりに日本語と同じように「ね」を使います。スリランカの人々はグループで協力して働くことを好みます。お祭りも大好きで、シンハラ人もタミル人も4月の同じ日に新年のお祝いをします。また、皆、数学好きです。スリランカには、ハロウィーンの習慣はありません。

ヤン ブラッカ (ドイツ) 小樽商大留学生 (男性)

皆様、こんにちは。私はヤン・ブラッカと申します。ドイツから来まして、小樽商科大学で学んでいます。マーケティング、経済学、そして日本語を勉強しています。私は、ドイツ（ヨーロッパ中部にある連邦制共和国。人口約8,242万人）の首都・ベルリンから来ました。ベルリンには約340万人が住んでいます。スリランカから来た方も話していましたが、気候は札幌と良く似ているのですが、札幌の方が寒いです。冬には北海道ほど雪は降りません。

それで、ハロウィーンについてなのですが、私の故郷ではふつう、ハロウィーンのお祝いはありませんが、最近、アメリカのハロウィーンが流入してきて、子供たちの中にはお菓子を求めて家をたずね歩く子もいます。今日はお招きいただきまして、ありがとうございます。

ジョセフ トマシ (アメリカ) UMASS からの北大留学生 (男性)

こんにちは。私はトマシと申します。マサチューセッツ州立大学から来ました。ハロウィーンは、アメリカの大きな年中行事の一つですので、子供時代のいろいろな思い出がよみがえります。ニューイングランドは、多くのアメリカ人にとって歴史と伝統の象徴です。アメリカの歴史はそんなに古くはありませんが、ニューイングランドはアメリカの歴史の原点です。「トリック・オア・トリート」をやった頃からは、かなり時間がたっているのですが、当時は友達で集ったり、近所の人々とパーティをしたり、懐かしい思い出がたくさんあります。今は、北大で日本語と日本文化を学んでいます。こうして、「ハロウィーン・パーティ」に招いていただいたことを嬉しく思います。日本に長く住んでいて、ハロウィーンのことは忘れていましたが、こうして皆様のお顔を拝見しながら楽しくおしゃべりして、楽しく過ごさせてもらっています。今日はほんとうにありがとうございました。「ハッピー・ハロウィーン！」

ダニエル ダニエルソン (アイスランド) 小樽商大留学生 (男性)

エイナル グドムンドソン (同上) 同上 (同上)

オラソン ソラリン (同上) 同上 (同上)

皆様、こんにちは。ダニエル、エイナル、オラソンの3人です。私たちは、アイスランド(北ヨーロッパ、イギリスの北西に位置する島国。公用語はアイスランド語。首都はレイキャビク、人口約299万人。1944年デンマークから独立。)から来ました。アイスランドでは、もともとはハロウィーンのお祝いはしないのですが、やはり、世界的な流行で、「トリック・オア・トリート」のようなものはあって、子供達は近所の家を訪問し、戸口で歌を歌い、お礼にお菓子をもらったりしています。

私達は、小樽商科大学でビジネスについて学んでいます。1年の予定でこちらで勉強しています。北海道はとてもすてきなところだと思います。アイスランドでは、夏はそんなに気温が上がリません。それでも冬もそれほど寒くなくて、北海道ほど雪が降りません。この留学中にはいろいろ日本の文化を学んだり、スノーボードを持ってき

たので、ニセコでスノーボードをするのもとても楽しみにしています。今日はほんとうにありがとうございました。

ニルパ (スリランカ) JICA 海外技術研修員 (女性)

私はニルパと申します。スリランカから来ました。JICAで下水道維持管理のコースで研修しています。母国語はシンハラ語です。ハロウィーンはありませんが、スリランカ最大の文化的祝祭日としては、シンハラの新 Year (お正月：4月のある日—高僧が決める?) を祝うことです。その日には田舎の実家へ帰り、家族と一緒にいろいろなごちそうを食べておもにお祝いをします。街中では若者たちが集まって、爆竹を鳴らしたりしてとてもにぎやかです。そして、親戚、近所の知り合いなど新年のあいさつをしまわります。

最後に皆様にお礼を申し上げたいと思います。このような文化交流パーティーにお招きいただき、たいへん親切にもてなしていただき、ありがとうございました。

ジョーダン パーティ (カナダ) 北大留学生 (男性)

皆様、こんにちは。ジョーダン・パーティと申します。カナダアルバータ州 (カナダ：公用語は英語・フランス語。首都オタワ、人口約3,250万人) から来ました。北大で、日本語と日本文化について学んでいます。カナダでもアメリカン・スタイルのハロウィーンは盛んです。子供達は「トリック・オア・トリート」に出かけたり、「ジャック・オー・ランタン」を作ったりします。またパーティも開かれます。以上です。

ニコラス デニュンジョ (アメリカ) 札幌東商業高校講師 (男性)

私は、現在は、札幌東商業高校で勤務していますが、その前は3年間浜益高校で働いていました。私はアメリカのペンシルバニア州(米国東北部の州。州都はリスバーク。人口約1,188万人。)の出身ですが、子供の頃はハロウィーンが大好きでした。今はそうでもありませんが、こうして日本に住んでおりますと、ハロウィーンや感謝祭を



HOMAS INTERNATIONAL EXCHANGE LUNCHEON

懐かしく思い出します。ハロウィーンや感謝祭では皆集って楽しくお喋りをしました。いかにも秋のお祭りといった雰囲気があります。とても懐かしく思い出しています。今日はお招きいただきありがとうございました。

ベアナード ターハマー

(オーストリア)

小樽商大留学生 (男性)

皆様、こんにちは。私はベアナード・ターハマーと申しまして、オーストリア（ヨーロッパの中心に位置する。北海道とほぼ同じ国土面積。人口約817万人。首都は音楽の都ウィーン）から来ております。小樽商科大学で学んでいます。ハロウィーンは、私の国ではあまり盛んではありませんが、だんだんと人気が出てきています。アメリカから輸入されたお祭りといった感じではありますが、でも、10月31日には、特別な伝統行事（11月1日諸聖人の日前夜）がありまして、それは、菓子パンのようなものを賭けて、サイコロ遊びをしたりするのです。この日には、友達と会ったり、家族と過ごしたりします。今日はお招きいただきありがとうございました。みなさんと食事と会話を楽しんでいます。ありがとうございました。

マーク ブラウン

(イギリス)

札幌市教委ALT (男性)

皆様、こんにちは。今日はお招きしてくださって、ありがとうございました。遅れてしまって本当に申し訳ありませんでした。風邪から立ち直ったばかりなのです。私はロンドン（世界的に有名な歴史と文化を有する大都市。英国の首都。人口約742万人。首都圏では1,200万人。）出身ですが、ロンドンの天候は、北海道によく似ているのですが、北海道の冬はとても寒くなると聞いています。雪はロンドンでは20cmくらいしか降りませんが、ここでは2.8mくらい？降りますね。（笑い）

「ハロウィーン」ですが、とても古いお祭りで、霊が地上に戻ってくる前（イブ）であると言われていました。私が子供の頃は今とは違ったふうにお祝いされていました。イギリスでは秋のロンドンのお祭りとしては、11月5日の「ガイ・フォークスの日」（1605年11月5日、弾圧されていたカトリック教徒によって計画された政府転覆をはかる上院議場爆破未遂事件。実行責任者がガイ・フォークス。）があります。夜にはロンドン中で花火が打ち上げられて、にぎやかでとても綺麗です。この日は、400年前の英国政府に対する民衆の陰謀計画をお祝いする日なのです。イギリスでは、この反逆精神の象徴とされる「ガイ・フォークスの日」（花火大会）の方が、重要な日とされています。

皆様、今日はありがとうございます。できれば皆様ひとりひとりとお話し、お名前をお聞きたいと思います。北海道を楽しみたいと思っています。こちらに来て3ヶ月になりますが、日本に来るのは私の夢でした。これまで世界中のいろいろな国々を訪れましたが、日本は私の夢だったので。どうもありがとうございました。

マーク ハミルトン

(カナダ)

2回もお話をするとは思っていませんでしたが、ハロウィーンの説明の時は自己紹介をしなかったもので… 私もカナダ出身です。自己紹介ではいつも「北海道大好き！」とっています。みなさん私に会うと、いつまで日本にいますか、と聞かれるのですが、私は北海道に骨を埋めるつもりです。北海道はカナダに似ているところで、自然に恵まれ、人は親切で、雪がいっぱい降ります。私も、スノーボード楽しみにしています。今日のパーティは、考えると、みなさんとは「一期一会」ですね。私の大好きな言葉ですが、茶道の言葉で、同じ人と同じ場所で会えるのは一度しかない、というのですが、そんな気持ちでいます。この出会いを大切に考えています。今日は妻と一緒に招待頂きましたことをうれしく思っています。英語だと、「one chance, one meeting」 だけれど、またお会いできると嬉しいなと思っています。ありがとうございました。

ハミルトン先生ご紹介：カナダオンタリオ州出身。1998年夏交換留学生として初来日。1993年JETプログラムAETとして来道、以後北大大学院に学びながら英語講師や通訳を務め、現職は、東海大学助教授。

都市交流ニュース・・・七飯町コンコード交流訪問団

[2006 七飯町コンコード交流訪問団派遣]

今年度で12回目となる中高生海外交流研修事業として、中宮安一町長を団長に七飯町訪問団として中学生5名、高校生2名、大人7名の合計14名が10月16日から26日までの日程で、アメリカ・マサチューセッツ州の姉妹都市コンコードを交流訪問しました。

コンコードは、紅葉真盛りで黄色、赤、オレンジ色が鮮やかで、特にオレンジ色の紅葉は、蛍光ペンで塗ったような、まるで透き通るような色合いでした。

一行は、現地時間で10月16日午後7時過ぎにボストンの空港に着きました。空港の到着ロビーに出ると7月に七飯でお会したトーマス・カーティンさんとディンティーノさん、そしてリアナさんの笑顔が・・・、初めての地で、アメリカで、心細く心配していたことが一気に吹っ飛んでしまいました。私は残念ながら英語はわかりませんが、なぜか言っていることは分かり、お迎えに来てくれた黄色のスクールバスに乗車しました。交流とはこういうものではないでしょうか。心で通じるものなんですね。早速、ホストファミリーの皆さんが待っているコンコード・カーライル高校へ。午後9時頃になってしまいましたが、暖かく迎えられました。その後、それぞれがホストファミリーの家庭へと向かいました。中高生たちは、次の日からホストファミリーの子どもたちと一緒にコンコード・カーライル高校に通学し、アメリカでの留学体験をとおして、日米の文化や習慣の違いなど、たくさんの貴重な体験をしました。また、私たちは、保育所、学校、老人福祉施設、下水道処理場、橋の架け替え工事現場等を視察し、夜にはポットラックパーティーでの夕食会でコンコードの皆さんと交流を深めてまいりました。



ウィラード小学校生徒の”いか踊り“



コンコードタウンハウス前にて

コンコードのタウンハウスにおいて、タウンマネージャー(町長職)と意見交換させていただいて驚いた事は、コンコード町は直接民主主義だったことです。5名の代表者を選挙で選び行政執行をし、議会はありません。年1回4月にタウンミーティングを開催し政策を決定するそうです。こうした制度は、米国でも珍しく、北東部(ニューイングランド地方)の一部だけに存在し、かつての英国の名残りだそうです。しかし、現在の人口が1万5千人となり、「直接民主主義制度は限界に来ているのでは」との事でした。また、町内を移動中にスクールバスを見かけ、バスが停車したところ、全ての自動車が停車しました。理由を尋ねると、子供たちの安全のため「スクールバスが停車しハザードが点灯したら全ての車は停車することになっている」との事でした。そのことがきちりと守られているこの町の素晴らしさを驚かすにはいられませんでした。

そして、新たに七飯町の5代目国際交流員としてコンコードから、ウイットニー・ウォレンさんと一緒に帰ってきました。彼女は、スペインやイタリアには行ったことがあるそうですが、日本は初めてです。

今後一年間、コンコードと七飯町の交流の架け橋となって七飯町をはじめ、北海道、日本の魅力、アメリカ、コンコードの魅力を私たちに伝えてくれるものと確信しております。

来年は、姉妹提携10周年であることから、4月の中旬にコンコード・カーライル高校から約100名が来町する予定です。中高校生によるブラスバンド合同演奏会や地球規模の環境保全、地球温暖化防止をテーマに「みなみ北海道青少年環境国際会議」、風力と太陽光による自然エネルギーを利用した発電によるシンボルツリーのライトアップも企画しております。

トーマス・カーティンさんからキーパーソンを受け継いだ、コンコード・カーライル高校の教師デビッド・ナレンバーグさんは、「みんなで築いてきた交流を今後も進め、来年の10周年を契機にコンコードと七飯町の友情を一層深めていきたい。」とあいさつがありました。

両町の絆はより一層強く結ばれるものと確信しております。(国際交流係長 杉原 太)

事務局短信

“バスケットボール殿堂館日本移動展 in 滝川” 見学ツアー実施

滝川市が、7月21日(金)～30日(日)の10日間、姉妹都市スプリングフィールド市のバスケットボール殿堂館日本移動展を開催しましたので、当協会としましては、21日のオープニングセレモニーに参加、そして27日(木)に見学ツアーを企画実施いたしました。(参加者14名)

見学ツアーの日程としては、滝川市庁舎訪問、日本移動展見学、(松尾ジンギスカン昼食)、グライダー基地、樺戸博物館、アルテピアッツァ美唄など盛沢山の1日コースとなりました。

クラーク博士曾孫スチュー・クラーク氏ご夫妻来道 盛大な歓迎レセプション

この度、クラーク博士の曾孫スチュー・クラーク氏ご夫妻は、大園雍彦氏(習志野市在住)のお世話で、9月22日～10月10日の日程で来日されましたが、去る9月28日(木)～30日(土)の3日間の来札日程を当協会が随行ご案内いたしました。 <クラーク博士ご一行来道130周年については、「HOMAS」No.48に詳述>

2006年が、クラーク博士の明治9年(1876年)来道からちょうど130周年にあたるのを記念して来道されたものです。28日(木)は、午前新千歳空港着後、旧島松駅通(博士が「ボーイズビーアンビシャス」の言葉を残して学生たちと別れた地)、羊ヶ丘展望台(「丘上のクラーク像」)それから藻岩山頂展望台へご案内。29日は、北海道庁表敬訪問(旧開拓使庁舎跡、赤れんが庁舎見学)、北大総長表敬訪問(博物館、モデルバーン、植物園見学)、米国総領事館表敬訪問等のご案内。夜は、盛大な歓迎レセプション(札幌ガーデンパレス・約70名参加)を開催しました。30日(土)は、JRで深川市のクラーク記念国際高校(本校)へご案内しました。10月1日(日)からは、帯広に滞在され、5日(木)に離道されました。スチュー・クラーク氏は、米国アラスカ州スワード市の元市長の要職にあつた方で、帯広市との姉妹提携(1968)の国際交流行事にも参加されました。

＜クラーク氏略歴紹介＞

1950年アムハースト大学を数学の最優秀賞を得て卒業。1956年ハーバード大学経営管理修士号を取得。1983年までニューハンプシャー州で過ごし、退職後約10年間モーターホームで北米各地を廻る。1984年アラスカ州スワード市定住。2003年スワード市開基100周年記念式典はスワード市長[2005年まで]として、国際姉妹都市帯広市、国際港湾都市釧路市の訪問団を迎える。2006年6月からワシントン州ベリングハム近郊に移住。

＜クラーク氏歓迎レセプションあいさつ＞

只今はすばらしい歓迎のお言葉をいただきありがとうございます。今ここに皆様の前に立ちまして、皆様方から暖かい言葉とおもてなしを頂きましたことを大変光栄に存じます。また、この場をお借りしまして、北海道・マサチューセッツ協会、HBC北海道放送の温かいご手配により、ここ札幌でのこの様な会合にお招き頂きましたことにお礼申し上げます。

今回の日本での旅行にずっと同行して頂いています大園雍彦・芳子様ご夫妻のすばらしいご友情に、妻ショウディア共々大変感謝申し上げます。大園さんは2003年のアラスカスワード市開基100周年を祝って参列して頂きました。妻ショウディアと私の家にホームステイしていただき大変うれしく思っています。2004年には大園ご夫妻はプライベートでスワード市を訪れ、また私の家にホームステイして頂きました。

今回私にとりましては、札幌は4回目の訪問となります。しかしここに来れば来るほど、この街と北海道大学のすばらしさを新しく知る機会ともなります。1876年から1877年にウイリアム・スミス・クラーク博士が北大創設のためにここに来ました。1929年、私の祖父ヒューバート・ライマン・クラーク博士が札幌で教職に就いており、私の父クラークII世(博士)も1920年代に札幌で教職に就いていました。私の両親は北大開基80周年記念式典に参列しており、母と私は北大開基100周年の祝賀に参加しました。クラーク家は1988年道庁赤レンガ100周年記念と2002年の帯広市開基120周年のそれぞれの記念行事にも参加させていただきました。このようにクラーク家がさまざまな形で北海道と関わりあいを持っていることを簡単に紹介させていただきます。また国際姉妹都市の帯広市とスワード市、湾岸姉妹都市の釧路市とも関わりを持ってまいりました。

妻キャロルと私は、これから深川、帯広、釧路を訪問する予定で、それを楽しみにしています。そして、訪問中に公的・私的な関係をより深く強めていきたいと考えています。

北海道・マサチューセッツ協会の活動を今回改めて知り、今後益々の交流と発展を願っています。最後に昨日も申し上げましたが、男性だけでなく「女性も男性も少年も少女も、大志を抱け」と申し上げて私の挨拶といたします。

在ボストン日本国総領事館の人事異動について

この度、大久保徹夫経済担当領事が10月28日付で、日本貿易振興機構(ジェトロ)の経済分析部次長として帰国されることになりました。(後任領事はまだ確定していません)

大久保徹夫氏は、2003年10月13日付で、在ボストン日本国総領事館経済担当領事として着任されました。かつて北海道貿易情報センター長(1988、7～2000、12)として札幌でご活躍されたこともあり、北海道とマサチューセッツ州の姉妹交流に関しては、いろいろとご配慮をいただきました。特にボストンコモン「氷の江戸城」プロジェクト(2003年末)、姉妹提携15周年マ州訪問団派遣(2005年10月)などではお世話になりました。また、「マサチューセッツリポート」「ボストン便り」などのマサチューセッツ通信の定期的な情報もいただいております。ここに改めて感謝申し上げます。

新入会員紹介(2006年7月31日以降) <個人会員>

加藤 環子 濱埜 静子 斎藤 雄一 岩佐 栄子 阿部 勝也



北海道大学認定
札幌農学校
札幌農学校創立100周年記念
北海道大学創立100周年記念

北海道産の小麦を丸つきりを使用した
贅沢な配合。軽い食感と口どけのよさを
お楽しみください。



素朴でどこか懐かしい味。
札幌の小さな思い出となりますように！



100人
1000円(税別)

200人
2000円(税別)

400人
4000円(税別)

賞状付 郵付可

札幌農学校
札幌農学校

Be ambitious.
Just like
Sapporo



「札幌農学校」の取扱店は ●せのちや白石店 ●せのちや帯広店 ●せのちや釧路店 ●せのちや大沼店 ほか、
JPA加盟店、札幌市内数店舗、新千歳空港、北海道大学構内で、全国発送いたします。
お問い合わせはせのちや受発センター フリーダイヤル ☎0120-24-0161 (9:00AM-8:00PM)
<http://www.kinoteya.com>